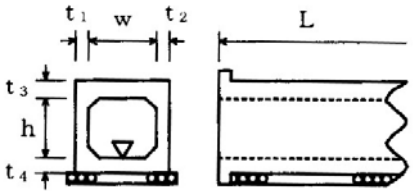
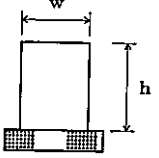
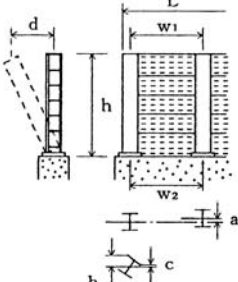
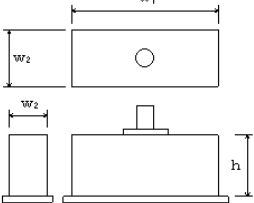
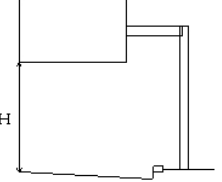


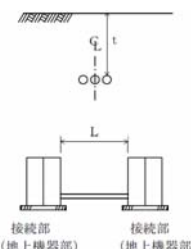
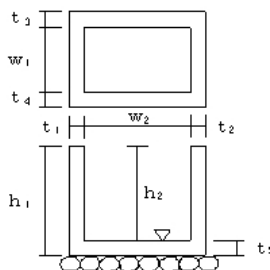
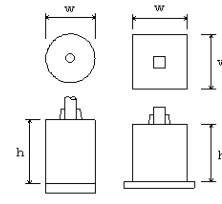
工 種	測定項目		規格値
遮音壁支柱製作工	部材	部材長 ℓ (m)	$\pm 3 \cdots \ell \leq 10$ $\pm 4 \cdots \ell > 10$
場所打函渠工	基準高	∇	± 30
	厚 さ	$t_1 \sim t_4$	-20
	幅(内法)	w	-30
	高 さ	h	± 30
	延 長	L	$L < 20\text{m}$
$L \geq 20\text{m}$			-100
遮音壁基礎工	幅	w	-30
	高 さ	h	-30
	延 長	L	-200
遮音壁本体工	支 柱	間 隔 w	± 15
		ず れ a	10
		ねじれ b-c	5
		倒 れ d	$h \times 0.5\%$
	高 さ	h	$+30、-20$
	延 長	L	-200
踏掛版工 (コンクリート工)	基準高		± 20
	各部の厚さ		± 20
	各部の長さ		± 30
(ラバーシュー)	各部の長さ		± 20
	厚 さ		\pm
(アンカーボルト)	中心のずれ		± 20
	アンカー長		設計値以上
大型標識工 (標識基礎工)	幅	w_1, w_2	-30
	高 さ	h	-30
大型標識工 (標識柱工)	設置高さ	H	設計値以上

測定基準	測定箇所	摘要
図面の寸法表示箇所にて測定。		
両端、施工継手及び図面の寸法表示箇所にて測定。		
施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、施工延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。		
1 施工箇所毎		
施工延長 5 スパンにつき 1 箇所		
1 施工箇所毎		
1箇所／1踏掛版		
全数		
全数		
基礎一基毎		
1 箇所／1 基		

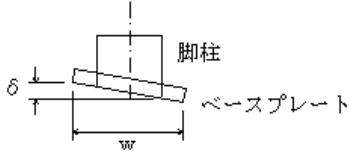
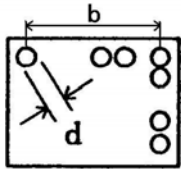
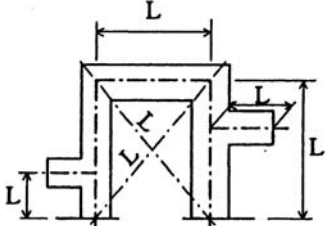
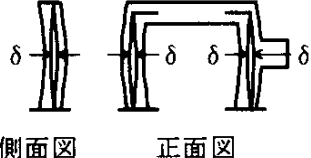
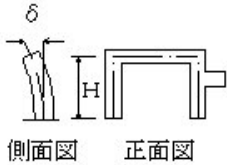
出来形管理基準及び規格値

単位mm

工 種	測定項目	規格値
ケーブル配管工	深 さ t	0~+50
	延 長 L	-200
ケーブル配管工 (ハンドホール工)	基準高▽	±30
	※厚 さ t ₁ ~t ₂₄	-20
	※幅 w ₁ , w ₂	-30
	※高 さ h ₁ , h ₂	-30
照明工 (照明柱基礎工)	幅 w	設計値以上
	高 さ h	設計値以上

測定基準	測定箇所	摘要
<p>接続部間毎に 1 箇所</p>	 <p>The diagram shows a top view of a pipe with two connection points. A vertical line with a circle at the end is labeled 'φ' and 't'. Below it, a horizontal line is labeled 'L'. Two vertical lines are labeled '接続部 (地上機器部)'.</p>	
<p>接続部間毎で全数。</p>		
<p>1 箇所毎 ※印は、現場打ちのある場合</p>	 <p>The diagram shows a cross-section of a pipe with a cast-in-place section. Dimensions are labeled: t_3, w_1, t_4, t_1, w_2, t_2, h_1, h_2, and t_3.</p>	
<p>1 箇所毎/ 1 施工箇所</p>	 <p>The diagram shows two views of a pipe section. The top view shows a circle with diameter 'w' and a square with side length 'w'. The bottom view shows a rectangle with height 'h'.</p>	

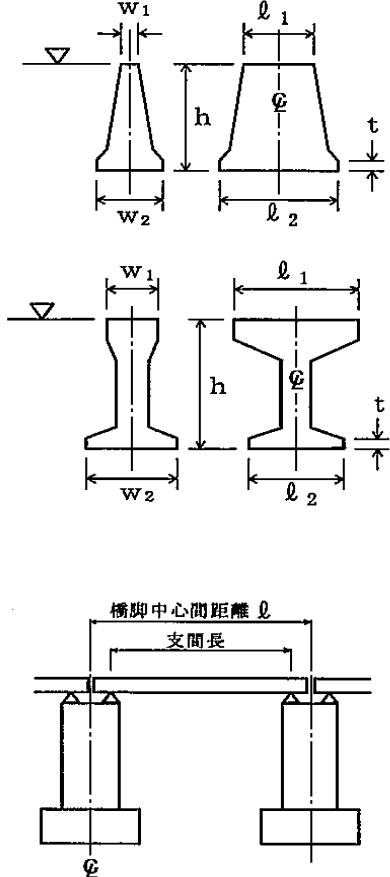
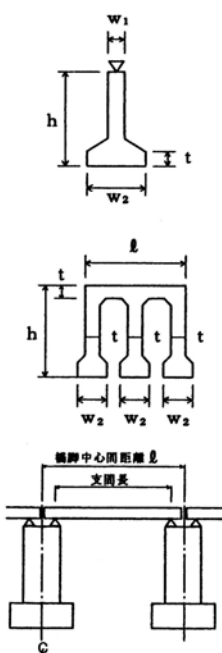
工 種	測定項目		規格値	
			個々の測定値 (X)	10個の測定値の平均(X ₁₀)
			上限	下限
鋼製橋脚製作工	部	脚柱とベースプレートの鉛直度 δ (mm)		W/500
		材	ベースプレート	孔の位置 b
			孔の径 d	0~5
	仮 組 立 時	柱の中心間隔、対角長 L (m)		±5…L ≤ 10m ±10…10 < L ≤ 20m ±(10+(L-20)/10) …20m < L
		はりのキャンバー及び柱の曲がり δ (mm)		L/1,000
		柱の鉛直度 δ (mm)		10…H ≤ 10 H/1,000…H > 10

測定基準	測定箇所	摘要
各脚柱、ベースプレートを測定。		
全数を測定。		
全数を測定。		
両端部及び片持ばり部を測定。		
各主構の各格点を測定。		
各柱及び片持ばり部を測定。 H : 高さ (m)		

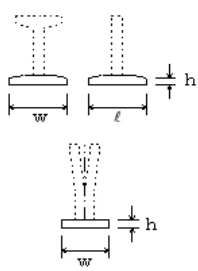
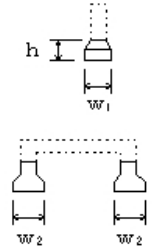
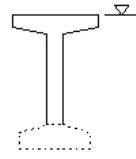
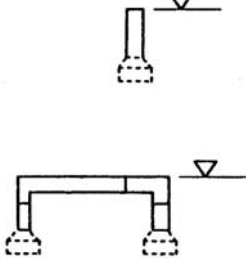
工 種	測定項目	規格値	
橋台躯体工	基準高 ∇	±20	
	厚 さ t	-20	
	天 端 幅 w_1 (橋軸方向)	-10	
	天 端 幅 w_2 (橋軸方向)	-10	
	敷 幅 w_3 (橋軸方向)	-50	
	高 さ h_1	-50	
	胸壁の高さ h_2	-30	
	天 端 幅 l_1	-50	
	敷 長 l_2	-50	
	胸壁間距離 l	±30	
	支間長及び中心線変位	±50	
	支承部アンカーボルトの箱抜き規格値	計画高	-20~+10
		平面位置	±20
アンカーボルトの鉛直度		1/50以下	

測定基準	測定箇所	摘要
<p>橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。</p>	<p>The diagrams illustrate the measurement points for bridge piers. The top two rows show cross-sections of the pier with dimensions W_2, W_1, h_2, h_1, and t. The bottom row shows a plan view of two piers with dimensions '胸壁間距離 ℓ' (distance between breast walls), '支間長' (span length), and a cross-section with dimensions ℓ_2, h_2, h_1, and t.</p>	

工 種	測定項目		規格値
橋脚躯体工 (張出式)	基準高	▽	±20
	厚 さ	t	-20
	天 端 幅 (橋軸方向)	w ₁	-20
	敷 幅 (橋軸方向)	w ₂	-50
	高 さ	h	-50
	天 端 長	ℓ ₁	-50
	敷 長	ℓ ₂	-50
	橋脚中心間距離	ℓ	±30
	支間長及び中心線変位		±50
	支 承 部 ア ン カ ー ボ ル の 箱 抜 き 規 格 値	計画高	-20~+10
平面位置		±20	
アンカボルトの鉛直度		1/50 以下	
橋脚躯体工 (ラーメン式)	基準高	▽	±20
	厚 さ	t	-20
	天 端 幅	w ₁	-20
	敷 幅	w ₂	-20
	高 さ	h	-50
	長 さ	ℓ	-20
	橋脚中心間距離	ℓ	±30
	支間長及び中心線の変位		±50
	支 承 部 ア ン カ ー ボ ル の 箱 抜 き 規 格 値	計画高	-20~+10
		平面位置	±20
アンカボルトの鉛直度		1/50 以下	

測定基準	測定箇所	摘要
<p>橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。</p>		
<p>橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。</p>		

工 種	測定項目	規格値
橋脚フーチング工 (I型・T型)	基準高 ∇	± 20
	幅 w (橋軸方向)	-50
	高さ h	-50
	長さ l	-50
橋脚フーチング工 (門型)	基準高 ∇	± 20
	幅 w_1, w_2	-50
	高さ h	-50
橋脚架設工 (I型・T型)	基準高 ∇	± 20
	橋脚中心間距離 l	± 30
	支間長及び中心線の変位	± 50
橋脚架設工 (門型)	基準高 ∇	± 20
	橋脚中心間距離 l	± 30
	支間長及び中心線の変位	± 50
現場継手工	現場継手部のすき間 δ_1, δ_2 (mm)	5 ※ ± 5

測定基準	測定箇所	摘 要
<p>橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。</p>		
<p>橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。</p>		
<p>橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。</p>		
<p>橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。</p>		
<p>主桁、主構の全継手数の 1 / 2 を測定。 ※は耐候性鋼材（裸使用）の場合</p>		

出来形管理基準及び規格値

単位mm

工 種	測定項目		規格値
橋梁用高欄製作工	部 材	部材長 l (m)	$\pm 3 \cdots \cdots l \leq 10$ $\pm 4 \cdots \cdots l > 10$

出来形管理基準及び規格値

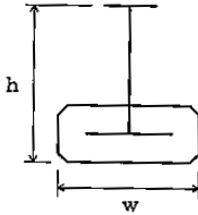
単位mm

測定基準	測定箇所	摘 要
図面の寸法表示箇所にて測定。		

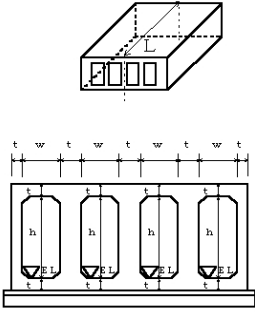
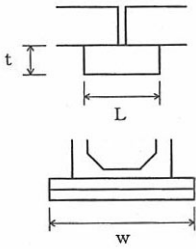
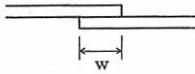
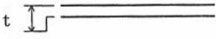
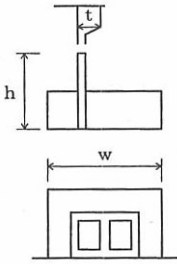
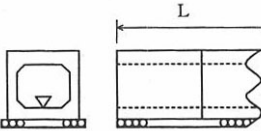
出来形管理基準及び規格値

単位mm

工 種	測定項目	規格値
プレビーム桁製作工 (現場)	幅 w	± 5
	高さ h	+10 - 5
	桁 長 スパン長 ℓ	ℓ<15…±10 ℓ≥15…±(ℓ-5) かつ-30mm以内
	横方向最大タワミ	0.8ℓ

測定基準	測定箇所	摘 要
<p>桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレッシング後に測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の3箇所とする。 ℓ：スパン長</p>		
<p>各支点及び各支間中央付近を測定。</p>		
<p>原則として仮組立をしない部材について主要部材全数で測定。</p>		
<p>各主桁について10～20m間隔を測定。</p>		

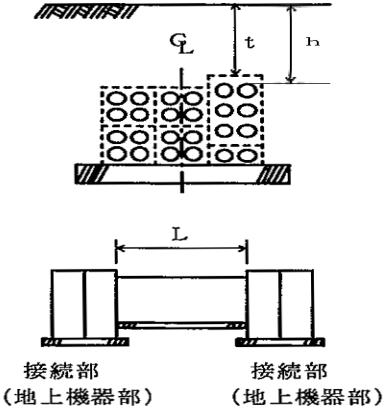
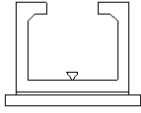
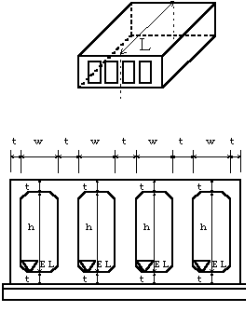
工 種	測定項目	規格値
現場打躯体工	基 準 高 ∇	± 30
	厚 さ t	-20
	内 空 幅 w	-30
	内 空 高 h	± 30
	ブロック長 L	-50
カラー継手工	厚 さ t	-20
	幅 w	-20
	長 さ L	-20
防水工 (防水)	幅 w	設計値以上
防水工 (防水保護工)	厚 さ t	設計値以上
防水工 (防水壁)	高 さ h	-20
	幅 w	± 50
	厚 さ t	-20
プレキャスト躯体工	標 準 高 ∇	± 30
	延 長 L	-200

測定基準	測定箇所	摘 要
<p>両端・施工継手箇所及び図面の寸法表示箇所で測定。</p>		
<p>図面の寸法表示箇所で測定。</p>		
<p>両端・施工継手箇所の底版・側壁・頂版で測定。</p>		
<p>両端・施工継手箇所の「四隅」で測定。</p>		
<p>図面の寸法表示箇所で測定。</p>		
<p>施工延長40mにつき1箇所、延長40m以下のものは1施工箇所につき2箇所。ただし、基準高の適用は据付後の段階検査時のみ適用する。</p>		
<p>延長：1施工箇所毎</p>		

出来形管理基準及び規格値

単位mm

工 種	測定項目	規格値
管路工	埋 設 深 h	0～+50
	延 長 L	-200
プレキャストボックス工	基 準 高 ▽	±30
現場打ボックス工	基 準 高 ▽	±30
	厚 さ t	-20
	内 空 幅 w	-30
	内 空 高 h	±30
	ブロック長 L	-50

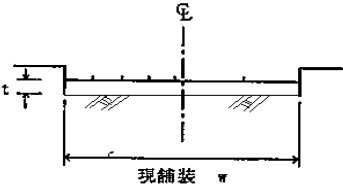
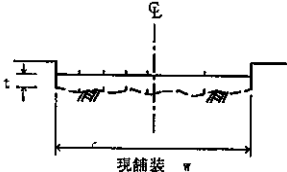
測定基準	測定箇所	摘 要
<p>柵間毎に全数。</p>		
<p>接続部(地上機器部)毎に 1 箇所。</p>		
<p>両端・施工継手箇所及び図面の寸法表示箇所で測定。</p>		

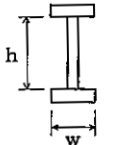
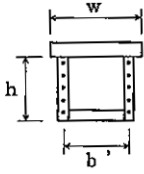
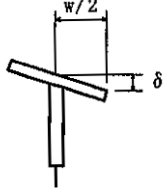
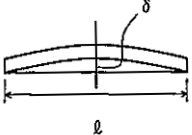
出来形管理基準及び規格値

単位mm

工 種	測定項目	規格値	
		個々の測定値 (X)	10個の測定値の平均(X ₁₀)
切削オーバーレイ (路面切削)	厚 さ t	-7	-2
	幅 w	-25	-
オーバーレイ工	厚 さ t	-9	
	幅 w	-25	
	延 長 L	-100	
	平 坦 性	-	3 m ² プロファイルター(σ) 2.4 mm以下直読式(足付き) (σ)1.75 mm以下

工 種	測定項目	規格値
桁補強材製作工	フランジ幅 w (m) 腹板高 h (m) 腹板間隔 b (m)	$\pm 2 \cdots w \leq 0.5$ $\pm 3 \cdots 0.5 < w \leq 1.0$ $\pm 4 \cdots 1.0 < w \leq 2.0$ $\pm (3 + w/2) \cdots 2.0 < w$
	フランジの直角度 δ (mm)	w/200
	圧縮材の曲がり δ (mm)	ℓ/1000
床版補強工 (炭素繊維シート接着)	重ね継手長	設計値以上

測定基準	測定箇所	摘要
<p>厚さは20m毎に現舗装高さと切削後の基準高の差で算出する。測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 延長20m未満の場合は、2箇所／施工箇所とする。断面状況で、間隔、測点数、厚さを変えることが出来る。測量方法は自動横断測定法によることが出来る。</p>		
<p>厚さは20m毎に現舗装高さとオーバーレイ後の基準高の差で算出する。測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 幅は延長40m毎に1箇所の割とし、延長20m未満の場合は、2箇所／施工箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数、厚さを変えることが出来る。</p>	 <p>維持工事、及び施工延長100m未満又は人力敷均しにより舗設した箇所においては、平坦性の項目を省略することが出来る。</p>	

測定基準		測定箇所	摘要
鋼げた等	トラス・アーチ等		
主げた・主構 各支点及び各支間中央付近を測定。			
床組など 構造別に、5部材につき1個抜き取った部材の中央付近を測定。			
主げた 各支点及び各支間中央付近を測定。			
主要部材全数を測定。 ℓ : 部材長(mm)			
全数			